

令和 8 年度 編入学・転入学 入試問題 出題の意図

【編入学・転入学選抜Ⅱ期】

<経済学>

本問題は、労働市場における「最低賃金」という具体的な政策介入を題材に、ミクロ経済学の基礎概念である余剰分析の理解度を問うものである。グラフ上の各領域（A～F）の変化を通じて、消費者余剰・生産者余剰および死荷重を正確に識別できるかを確認する。また、論述形式により、理論的な市場メカニズムの理解と、現実の労働市場における諸要因を多角的に考察する能力を評価している。

<経営学>

コトラーの理論、あるいは、競争地位戦略におけるニッチ（隙間）についての知見があれば解ける問題。また、理論そのものを学習していなかったとしても、「ニッチ」についての事例の知識があれば解ける可能性が高いと考えられる。

<法学>

事例に示された事実関係をもとにそこで問題となっている法律関係をどの程度明らかにすることができるかを見ることにより、受験者の有する法学に関する知識と理解について問うてみるという趣旨の出題である。ここでは主に民法の基本原則である権利濫用の禁止に関する知識と理解が問われている。